



## 2024年度年末手当に関する申し入れ 基準内賃金の3.8ヶ月分を要求

中央本部は10月18日、申第3号として2024年度年末手当に関する申し入れを経営側に提出しました。

年末手当の要求満額実現に向けて、全組合員で取り組みを創り出しましょう！

JR東日本は7月31日に2024年度の第1四半期決算を発表しました。これによると単体では、営業収益が506.9億円、営業利益は100.4億円となり、4期連続の増収増益を実現しました。

またゴールデンウィーク期間やお盆期間のご利用状況はいずれも前年を上回り、コロナ禍以降、好調を維持しています。

訪日外国人旅行者数が8ヶ月連続で月ごとの過去最多数を更新するなど変化を続ける中で、すべての社員一人ひとりがお客さまや地域からの信用・信頼を取り戻しながら、鉄道的安全・安定輸送を確実なものとして収入の確保と会社の発展に向けて日々奮闘しています。



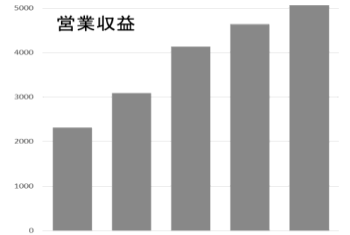
社員とその家族の未来あこがれを追求しました。

### 低額に抑え込まれた夏季手当 抑え込まれた分を取り戻そう

2024年度夏季手当について経営側は、「年収た」という声よりも、「2ヶ月分」で計画が立てられたことが社員・家族の幸福の現れにつながると主張して賃金改定と同時に組合側に提案を行い、「新賃金・夏季手当」の同時議論を求めました。

組合側は「計画的な生活設計において社員が検討するのは時期ではなく支給額だ」と繰り返し主張したものの、経営側は「社員の生活設計」だけを理由に例年より早期の妥結を求めました。

その結果現場では、2024春闘で賃金は上がりながらも、夏季手当について



営業収益  
営業利益  
コロナ禍以降の会社業績は右肩上がり  
(JR東日本単体・第1四半期決算の推移)

この間の社員の努力やその成果としての会社業績をふまれば、もはや年間の手当6・0ヶ月で

「年末手当」の提出に前後して、東日本ユニオンには多くの社員から、年末手当や会社に対する本音の声を寄せられています。

●物価上昇で生活が苦しい。年末手当も夏の被害での損失云々と言いつつ、業績は絶対調なんだから、ちゃんと社員のことを考えてくれないか(酒田地区)  
●夏季手当は2・7ヶ月に抑えられた。年末手当は最低でも3・5ヶ月以上は出すべき(営業職場)  
●会社は業績が好調なのに社員にはシッカリ還元

「年末手当」「会社」に対する「これが社員の「本音の声」だ！」

●「これが社員の「本音の声」だ！」  
●「これが社員の「本音の声」だ！」

●「これが社員の「本音の声」だ！」  
●「これが社員の「本音の声」だ！」

る生活設計の確立がなければ、JR東日本の持続的成長は実現できず、社員が納得のできる期末手当の支給が前提となります。中央本部は10月18日、目まぐるしく変化する会社の制度変更や業務内容に相応した期末手当を求め、申3号として「2024年度年末手当に関する申し入れ」を経営側に提出

は足りないとの声も多く聞かれます。夏季手当で抑え込まれた分を取り戻し、努力と成果に相応しい年末手当を実現しましょう！

●新潟運輸区分会  
10月2日と4日に計6回分会集会を開催して年末手当のたかひについて意思統一を行いました。

●支社分会  
10月9日に分会総会を開催しました。年末手当について要求実現に向けた議論を交わしました。

要求満額実現に向け  
支部・分会で取り組みスタート  
年末手当の要求満額獲得実現に向けて、新潟地方本部の各支部・分会で取り組みがスタートしました。



支社分会  
第12回定期総会